

成果目標

2

国民の多様なニーズに応える森林への誘導

3

複層林化の推進

成果指標③

1.5% ➡ 4.3%

※目標値の算出の考え方

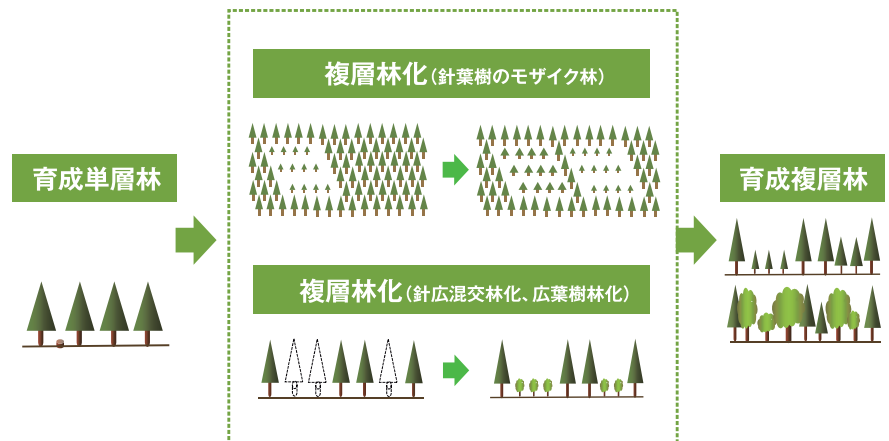
全国森林計画から推計した今後5年間に育成単層林から育成複層林へ誘導すべき面積を着実に誘導できた場合に達成される割合を設定している。

多様な樹種や階層からなる森林への誘導を目的とした整備を推進し、森林・林業基本計画において育成複層林に誘導することとされている340万haの育成単層林のうち、育成複層林へ誘導した森林の割合を増加させます。



※1 育成単層林：森林を構成する林木を皆伐により伐採し、単一の樹冠層を構成する森林として人為により成立させ維持される森林。

※2 育成複層林：森林を構成する林木を択伐等により伐採し、複数の樹冠層を構成する森林として人為により成立させ維持される森林。



4

花粉発生源対策の加速化

成果指標④

50% ➡ 70%

※目標値の算出の考え方

花粉の少ないスギ苗木生産割合を、現行の5割から10年後に9割以上に引き上げることを踏まえ、令和10年までに70%とすることを目標としている。

花粉症対策の推進に資するため、人工林において花粉の少ない苗木への植替えを進めていく必要性を踏まえ、スギ人工造林面積に占める花粉の少ないスギ苗木植栽面積の割合を増加させます。



※赤く色づいているのが花粉を出す雄花

(出典：国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター)